



ビートにのってソーシャルベンチャー!

ティーンが音楽で社会を変える

「ブラストビート」

Illustration 本秀康 Photo 小林秀銀
text 松岡由希子



ミニ音楽会社の運営を通じて オトナの社会を考える

音 楽は、いつの時代も、多くの若者が青春を燃やす存在であり続けています。また、最近ではフェイスブックの創業者マーク・ザッカーバーグ氏のよう

に、若くしてビジネスを立ち上げ、成功する起業家も増えてきました。その一方で、地球温暖化や貧困問題など、地球規模で取り組むべき社会的課題が顕在化するにつれ、「よりよい未来を創りたい!」という意識が若者たちの間でも高まりつつあります。そんな中、音楽、ビジネス、社会貢献という3つの要素をかけた合わせた画期的な教育プログラムが「ブラストビート」です。

「ブラストビート」は、音楽を通じた高校生向けの社会起業プログラム。2003年、アイルランドで始まり、米国、英国、南アフリカ共和国など、世界に拡大。日本でも、自らバンドマンの経験を持つ松浦貴昌代表を中心に、2009年から活動がスタートしました。

このプログラムでは、公募制度や協力校を通じて、音楽、ビジネス、社会貢献に関心のある高校生や大学生などを集め、チームに分かれて、「ミニ音楽会社」を設立。「そもそも会社って何?」「お金を稼ぐって、どういう意味だろう?」など、大人でも即答しづらい疑問について、学生が徹底的に考えます。

また、会社ごとに、音楽イベントを企画運営し、収益の25%以上を社会貢献活動に寄付するという一連のプロセスを、す

べて学生たちが実行。「社長」を中心に、各メンバーが財務・マーケティング・営業・広報など、それぞれ役割を分担し、イベントのコンセプトづくりから会場の手配、スポンサー探し、出演アーティストとの交渉、チケットの販売、広報、チラシの作成に至るまで、メンバーそれぞれが自分の得意分野を活かしながら、真剣に取り組めます。時に対立し、ぶつかり合いながらも、音楽イベントの成功という共通の目標に向かって、しだいにチームとして連携し、支え合って行動するようになるんだとか。

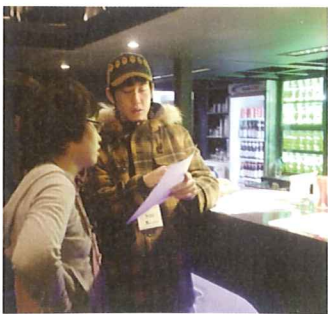
このように、音楽イベントをゼロから作りあげるといってチャレンジによって、ビジネスの仕組みやプロジェクトマネジメント、チームワーク、リーダーシップなど、学校の授業では教えてもらえないことを、実践しながら学ぶことができるのです。

そして、イベントの収益金の寄付先を選ぶのも学生たち。「自分たちが稼いだお金を、どのNPOの、どのような活動に活かせば、どんな人々の役に立つのか?」。学生たちは、真剣に考え、議論し、徹底的に調べていくうちに、今、世の中が抱えている様々な社会的課題に自然と目を向け、深い関心を持つようになるそうです。

「ブラストビート」のもうひとつの特徴として、大学生や音楽業界などで活躍する社会人がボランティアで「メンター」となり、学生たちの活動をサポートする仕組みがあります。学生は、親でも先生でもない、第三者の大人が愛情を持って親身



2011年5月9日、渋谷のライブハウス「TAKE OFF 7」で開催された大学生版プラストビートのイベント「Rainbow Rock Party〜明日へかける橋」。127名を集容し大盛況に終わりました。この収益はNPO法人国境なき楽団に全額寄付されるそうです。



こちらは2011年の2月、日本と韓国の大学生が集まった「日韓プラストビート」の様子。「Rala pipo」というミニ音楽会社を立ち上げ、4か月にわたってイベントの準備に取り組みました。大学生たちも、メンターも言葉や文化の壁を乗り越えながら、チームとしての一体感を醸成。そのかいもあって、日本・韓国でライブイベントがそれぞれ開催され、合わせて13万4000円の収益を得たそうです。現在、プラストビートでは、次期のプログラムが進行中。学生や社会人メンターなど、ご関心のある方はレッツジョイン！

に自分をサポートしてくれるという実体験を得ることができません。また、「メンター」である大人にとっても、学生たちから投げかけられる素朴で純粋な問いかけが、自らを振り返るきっかけとなったリ、新しい気づきにつながるなど、人として学び、成長する場になっています。つまり、「プラストビート」は、学生、社会人といった立場を問わず、これに関わるすべての人々が何かに挑戦できる場として機能しているのです。

新しいチャレンジによって、一人ひとりが生きるための真の力を身につけながら、社会に貢献し、そんな人と人がつ

ながり、支え合って、ともに成長する…。これこそ、これから目指すべき、自律的社会的カタチではないでしょうか。「プラストビート」は、音楽という、若者にとって身近な楽しみをきっかけとしながら、このような新しい社会をつくるための人材を育てています。

このプログラムの卒業生が、これからどんなチャレンジをし、10年後、20年後、どんな社会へと変えていってくれるのでしょうか？「プラストビート」は、「二石二鳥ならぬ、一石から無限大の可能性を生み出す、壮大なチャレンジといえるでしょう。」